

平成30年度農大就農促進対策助成事業

事業主体名 鹿児島県立農業大学校

1 目的

本校の入学者は、経営基盤の整っていない兼業農家、非農家の割合が増加している。これらの学生が卒業後に就農するためには、農地の確保、機械・施設の取得などに多額の資金や期間を要することから、本校で学習した専門的な知識技術を自らの営農として生かすことができない学生も少なくない。

今後、就農・就職相談会等への参加を通じ、早い時期から農業法人の理解促進を図り、非農家出身の学生を主とした雇用就農への意欲喚起及び就農促進を図る。

また、企業的な農業経営を行っている農家や農業法人の取り組みについて、経営者の講話や現地視察を通じて、理解促進を図り、就農対策の一助とする。

1 実施状況

(1) かごしま就農・就業相談会での相談活動

1年生だけでなく、まだ進路が決定していない2年生も参加することができて良かった。

法人との直接面談により具体的に内容が把握でき、進路選択に当たっての貴重な情報収集の場となった。



(2) 先進農家等による講話

ア 南原武博氏(農学部対象)

南原氏は昭和62年に就農し、ブライダル用葉物、花きの生産、プリザーブドフラワーにも取り組み、付加価値をつけた販売を行っている。生産工程管理システムを導入し人材育成・業務改善、生産技術の向上にも取り組み、地域農業のリーダー的存在である。

講演を聞いた学生からは、市場や客が何を必要としているか、何が必要になるのかなど先を見る事が大事とわかった。栽培技術だけではなく、作物を売るための技術も身につけていかなければいけないことを実感したなどの感想があり、有意義な研修となった。

イ 沖田 歩氏(畜産学部対象)

平成18年度に農業大学校養豚科を卒業し、5年後の平成23年から実家の沖田黒豚牧場に就農。黒豚生産から肥育、直売、レストラン経営までを会社化している。

講演を聞いた学生からは、農業をする人はいろんな事を知る必要がある。豚のことだけではだめだ。仕事は段取り8割、作業が2割、十分な準備が必要。人としての礼儀やコミュニケーションもとても大事である事がわかった等の感想があり、有意義な研修となった。



(3) 先進地等の視察研修

市場等や肥料・農薬工場を見学することで、野菜類の流通の仕組みや販売対策への取組み、肥料や農薬の製造方法や効果等について知識を深める。また、先進的な農家を視察研修することによって野菜生産の栽培技術や施設装備等について理解を深めることができた。

3 今後の課題、取り組み

今後も引き続き、本県の農業を担う人材の育成・確保を図るために、本事業を活用し、就農促進のための取り組みの充実・強化を図る。